

オンリーワン

バリアフリー

ペーパー

2月号

平成22年2月23日発行

偶数月発行

この機関紙は、西条市障害者相談支援センターがパソコン就労をめざす障害当事者グループ「オンリーワン」に編集を委託し、協同で作成したものです。



少しずつ寒さも和らぎ、春の訪れを待つ季節となりました。幼い頃、たくさんの別れや出逢いが訪れる春は期待と不安で胸がいっぱいだったのを思い出します。大人になると、少しずつそんな気持ちも薄れていきがちですが、私は支援センターの仕事をとおして日々たくさんの方々に関わらせてもらえる機会をいただいています。今回の機関紙もたくさんのお出会いと想いがつまったものが出来ました。是非ご一読ください。（支援センター津島）



「地域の支援ネットワークの構築を」 発達障害者支援セミナーに200人以上が参加

発達障害(児)者支援の現状を理解し、今後の地域のあり方を考えるセミナー「発達障害者支援セミナー～安心して暮らせる地域を創るために～」を、2月6日（土）東予地方局で開催し（東予地方局、愛媛県発達障害者支援センター「あい♥ゆう」、西条市障害者相談支援センター主催）、当事者、保護者、教育者、支援者ら210人も参加があり、関心の高さが伺えました。

＊ 第1部 講演 塩見志満子さん ＊

「共に輝いていきる」と題し、ご自身の生き様を通して語られた心のこもった言葉の一つ一つが皆さんにしっかりと届いていたと思います。塩見さんは退職後、小松町にある自宅横に「のらねこ学かん」を創設。障害(児)者や、心を病む人、不登校の人など、生きていく上でつらい体験をしている人に真正面から向き合い、地域の中で受け皿を独自に築いてこられた実践を紹介。地域の中にこのような素晴らしい場所があり素敵な支援者がいる事を知りました。命の大切さ、生きることの大切さをユーモアを交えながら、笑いあり涙ありで私達に訴えかけてくれました。

聞きに来てくれる人に元気になって欲しいと、全国各地で心に響く講演活動続ける塩見さん。



＊ 第2部 トークセッション ＊

西条市の保健、療育、教育、保護者など発達障害者に関わる各分野の方々にご出演頂き、支援機関の紹介や日頃の思い、課題などを発表してもらいました。その後、どのようにしたら安心して暮らせる地域を創っていくことができるかについて共通課題が見えてきました。当事者に寄り添って支援していくことや、子供の成長段階に応じた支援が継続して機能していくような地域の支援ネットワークを構築することが重要であることを確認しました。

パネリストと参加者で熱心なやり取りが行われた質疑応答。



支援の間に置かれてきた発達障害。参加者の皆さんに共通していたのは、日々支援の難しさを感じつつ、何とか本人にとっていい関わりをしたいとする前向きな思いでした。（支援センター青野）



当事者の奮闘記 未来への足跡(あしあと)



今回は、脳性麻痺のある選手による CP サッカーに熱中している渡辺慎平さん取材して来ました♪

また、渡辺さんが働かれている「野菜工房ていずい」の取材もさせていただきました！！

渡辺さんの取材は、「野菜工房ていずい」でおこなわせていただきました。彼は、新居浜市の山根方面から毎朝40分かけて通所しているそうです。そんな彼が立ち上げたサッカーチームが、「脳性麻痺サッカーチーム VALUES (バリュース)」です。バリュースの練習は、毎週日曜日に西条市東予運動公園で、午後2時から午後4時までやっているそうで、よかったら見に来て下さいとのことでした。

今現在は、仲間6人で練習を頑張っているそうで、平成20年、21年と「CP サッカー全日本選手権大会」にも出場したそうです。「優勝はできませんでしたが、もっと仲間を増やして色々な大きな大会に出場を目指します！」との言葉に、渡辺さんのCPサッカーに対する熱意と意欲に感動しました。「今一番大切にしているのは、仕事と休日のサッカーを楽しむことです。」と、少しはに cand 日焼けした肌に白く光る歯が、とても印象的でした。脳性麻痺の後遺症のハンディをもらってもせず、毎日通所のための車の運転、そしてサッカーチームのトップとして活躍する渡辺さんに、心よりエールを送りたいと思います。

そんなチームも、健常者の参加が一人は認められているそうで、メンバーを募集しているそうです。興味のある方は、渡辺さんに連絡してみてくださいね。

渡辺さんの連絡先：TEL：080-5662-7522

Eメール：「cpvalues@dokidoki.ne.jp」



(左写真) 取材の様子。

(右写真) サッカーをする渡辺さん。



「野菜工房ていずい」は、正式には「就労継続支援（A型）事業」と呼ばれる障害者施設です。作業所との違いは、雇用契約があり、最低賃金が支払われることです。そして、3障害全てを受け入れる施設で現在、25名の方が通所されています。就業時間は、午前10時から午後3時まで。「野菜工房」の名の通り、水耕栽培で野菜を作っています。



取材のなかで、施設長さんが、「職員が利用者の方と同じ目線に立ち、想いを受け止める、そして見守ることを一番大切にしている」との話がありました。そして、「見守られている壁を乗り越えて、一般就労してくれる事が一番です。」とも話してくれました。

4月には、栽培面積の拡大を計画中で、それにより、勤務時間が長くなる人が出てきますが、すでに希望者もおられるとのことでした。西条市にこのような素晴らしい施設が存在している事が、私達西条市民の誇りだと思います。取材を終えた後、収穫された「水菜」を購入させていただきました。生で食べた水菜の美味しさと食感、野菜工房の温かさと優しささえ感じました。今後も、障害者就労の中核として頑張りたいです！



「苗テラス」の様子。たくさんの野菜の苗が並んでいました♪



野菜工房ハウス内の様子。みずみずしい野菜がすくすく育っています！！

余談になりますが、この野菜工房の強みは、「苗テラス」と言う発芽装置です。比較的高価な装置で、水耕栽培をしている農家すべてが持っているわけではないそうです。巨大な冷蔵庫のようにも見えますが、これがあるのとないのでは大違いだそうです。特にびっくりしたのは、温度や水分はなんとなくわかるのですが、「炭酸ガス」が必要だと言う事。いろいろな植物がこの苗テラスから生まれています。（梅野）

（イラスト しんすけ）



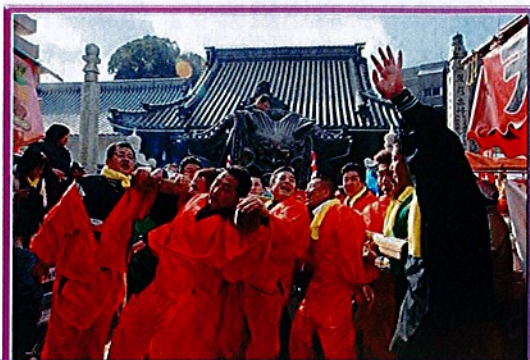


のぶちゃん・おーちゃんのべすとしょと



「大護摩供会」

旧暦の1月18日に西条市丹原町の西山興隆寺で行われる火を使った祈禱行事。写真は、火で沸騰したお湯を笹の葉を使って、頭にかぶっているところです。最後に、護摩木をたいた火の上を素足で渡ります。このお寺は、もみじ寺として有名ですが、こんな行事もあるんですよ。今年は3月3日の予定。撮影：のぶちゃん



「節分」

今治市菊間町にある厄除け大師「遍照院」で節分の厄除け行事がありました。「福は内、鬼も内」と言いながら61歳の男女による豆まきや餅まきがあり、42歳の厄男たちによって「瓦みこし」を担いでにぎわっていました。私は、歳の数ほどの豆を食べきれなくなっています。(笑) 撮影：のぶちゃん

編集後記 機関紙「オンリーワン」も3年目を迎える事が出来ました。2か月に1回発行することは、結構大変なんだと最近になって、やっとわかりました。(笑) でも、外部施設への取材は醍醐味でもあり、楽しく取材活動をさせてもらっています。ありがとうございました。そして、これからご協力よろしくお願いします。さて、そんなオンリーワン編集メンバーもいい意味で人数が減っています。企業や施設に就労した人、就職活動中の人などなど。スタート時9名でしたが、現在固定しているメンバーは5名となりました。もし、この機関紙を読んでいる方で編集や取材活動に興味のある方がいましたら、「障害者相談支援センター」まで連絡下さい。(大岩)

障害者相談支援センターからのお知らせ！

■ 「障害者自立支援法等の相談会」を行います。

障害をお持ちの方やご家族を対象に相談会を実施します。
制度やサービスのこと、将来のこと、障害のことなどお気軽におたずねください。

- * 実施日時 * 3月4日(木)10時～12時
- * 実施場所 * 西条市丹原福祉センター
- * 費用 * 無料

※障害者相談支援センター(星の里・社協)の相談員がご相談をお受けします。

予約は必要ありませんが、
ご不明な点がございましたら
お問い合わせください。



発行：西条市障害者相談支援センター（西条市社会福祉協議会）

編集：オンリーワン編集委員

〒799-1371 西条市周布 606 番地 1 西条市東予総合福祉センター内

TEL：0898-64-2600 (代) FAX：0898-64-3920 E-mail：soudan-saijo@galaxy.ocn.ne.jp